

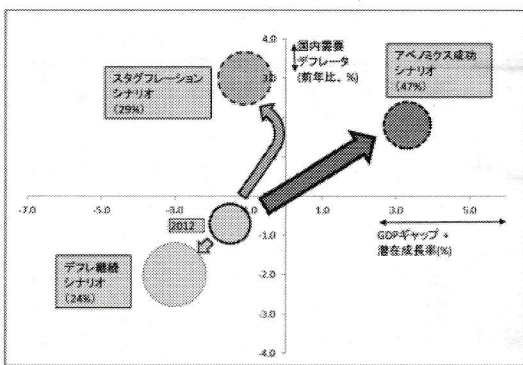
# 「リスク台風マップ」で日本経済展望

日本価値創造ERM学会はこのほど、東京都千代田区の明治大学アカデミーコモンで第5回研究会を開催した。ソシエテジェネラル証券東京支店の酒井重人氏が最近のジャパン・リスク・フォーラム(JRF)の活動を紹介。また、ジャパン・マクロ・アドバイザーズの大久保琢史氏が同フォーラムでの議論をベースに開発しているツール「ジャパンリスク台風マップ」について解説し、アベノミクスのシナリオと日本経済の今後の動向を論じた。当日は学会会員をはじめ多数が参加した。

冒頭、酒井氏はJRFの活動について説明。2010年後半以来、金融機関や事業法人、コンサルティング会社などのリスクの専門家や経営者層が定期的に経済シナリオ、ストレスシナリオに関する意見交換を行っていること、また、その結果、参加者の専門的理解が深まり、ERMアプロの座標軸によって、図形の活動について説明。2010年後半以来、金融機関や事業法人、コンサルティング会社などのリスクの専門家や経営者層が定期的に経済シナリオ、ストレスシナリオに関する意見交換を行っていること、また、その結果、参加者の専門的理解が深まり、ERMアプロの座標軸によって、図形の活動について説明。

## 日本経済の進路予測:リスク・スコアリング・ベクトル

実際の日本経済が、どの方向に向かっているかの判断に資する計数を作成



次に、6月末時点のデータに基づき、日本経済の先行きを示す三つのシナリオとして、「アベノミクス成功」「スタグフレーション」「デフレ継続」を提示。台風が右上に進行を取るアベノミクスの成功シナリオでは、世界経済が徐々に回復する中、緩やかな円安トレンドが持続して日本経済

「続」を提示。台風が右上に進行を取るアベノミクスの成功シナリオでは、世界経済が徐々に回復する中、緩やかな円安トレンドが持続して日本経済

一方、円が中心軸から左上にシフトするスタグフレーションシナリオでは、13年から14年にかけて輸出の寄与が少なくことから経済成長が低く推移する一方、インフレは目標に沿って上昇するため、経常収支が悪化。円安が進行して日本銀行は金利の引き上げを余儀なくされる結果、経済成長の一層の鈍化を招く。

また、マップ上で円が左下へ移動するデフレ継続シナリオでは、日本経済がデフレ均衡から抜け出せずにインフレ期待がしほみ、円安と株高が解消する。消費・投資・輸出共に伸びず、14年以降、成長は急激に鈍化。名目成長率はマイナスになり、債務GDP比は上昇を続ける。

## 「アベノミクス成功シナリオ」の蓋然性を分析

大久保氏は、「現時点では、アベノミクスの成功シナリオが実現する方向性が最も高い」との考えを示した上で、JRFでは今後もジャパンリスク台風マップを用いて日本経済の動向を定期的に分析し、メディアなどを通じて公開していく方針を明らかにした。